

慶應義塾大学 文学部

東洋史学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業には東洋史学専攻の専門教育科目における第 2・3・4 学年の進級条件科目・卒業条件科目を適切に履修し、単位を修得することが求められる。所定の要件を満たしたと認められる学生に学士（史学）の学位を授与する。卒業試験は卒業論文によって行われる。卒業論文では、独創的かつ適切なテーマを自らが主体的に設定したうえで、学術的な研究文献や一次資料を積極的に読み解き、論理的かつ多面的な考察を重ね、それらを論文として表現することのできる能力が重視される。東洋史学専攻での学習をとおして、東洋史学に関する学術的・専門的な事柄や能力に留まらず、日本社会や国際社会における政治・経済・社会・文化を歴史的・多面的に捉え、人々の多様な価値観を認識し理解する力を養う。さらには社会や自身の現状における問題や課題を見出し、その解決に向けて努力し続ける力を身につける。また在学中に培った外国語の能力を活かし、アジアを始めとする国際社会で活躍したり、国際交流の分野で貢献できる道も開かれている。

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 研究文献や一次資料を踏まえている。
3. 方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。